

政府は、令和3年2月26日、男性が妻の出産直後に2週間取得できる特別な育児休業制度「出生時育休」の導入を盛り込んだ育児・介護休業などの改正案を閣議決定しました。今国会に提出して成立を目指し、導入は早ければ令和4年10月の見通しとなっています。

昨今話題となっている「ジェンダーバランス」については企業の成長戦略の1つとして大きな課題となっていますが、育児休業の面からみても、男性の育児休業取得率は全国でも1ケタの状況となっており、男女ともに多様な働き方を実現できるようになるには課題が多くありそうです。

今回、育児休業を取得したはたプラ賛同企業や団体に勤める男性に、育児休業取得前後の職場や家庭での様子を伺い、本音を語って頂きました。

- ① お子さんの年齢
- ② 育児休業取得期間
- ③ お子さんの好きなもの

「はたプラ通信」男性の育児休業に関する座談会メンバー



遠藤 頑太さん

グローバルマーケティング株式会社
コンサルティング部 部長

- ① 3歳7か月
- ② 1歳1か月～1歳2か月
- ③ 働く車、ぶどう、アイス



青柳 剛志さん

株式会社サカタ製作所
総務部 ITシステム課

- ① 2歳7か月
- ② (1回目)生後2か月の時1日
(2回目)生後4か月の時10日
- ③ アンパンマン、ポケモン、おにぎり



中島 翔さん

マコー株式会社 開発部Bテック

- ① 3歳2か月と1歳6か月
- ② 第1子：1か月間
第2子：生後1週間～満1歳の間
- ③ ポケモン全般、大根



根津 崇さん

長岡市 議会総務課

- ① 3歳と生後6か月
- ② 第2子が生後1か月～2か月の間
- ③ 電車やバスなどの乗り物、いちご

Q1 育児休業を取得しようと思った理由は何ですか？

- 遠藤**：子育てに携わりたかったからということと、管理職の私が育児休業を取ると後輩たちも取りやすくなると思ったからです。
- 青柳**：当社の男性の育児休業取得率が100%だったので、もともと職場に育児休業を取るような雰囲気がありましたし、私自身も子どもの成長の過程を見たいと思い、取得しました。
- 中島**：単純に子どもの育児に携わりたかったからです。第2子の時は夫婦ともにほぼ同時期に育児休業を取りました。
- 根津**：第1子の時は取得できなかったのですが、子どもが大好きだったことに加え、前職で保育士をしていたこともあり、第2子の時はぜひ取得したいと思っていました。



Q2 育児休業を取得することについて職場の反応はどうでしたか？

- 遠藤**：子育てを経験している社員からは、「パパが取るのはすごくいいよね」と言ってもらえましたし、部下からも応援してもらえました。育児休業中もいつでも連絡が取れる状況でしたので、部下の不安はなかったのかもしれない。
- 青柳**：私の部署は社内SEとして4人チーム制で行っており、普段から属人化しない体制になっていますので、問題ありませんでした。
- 中島**：第1子の時は育児休業中も電話に出られるようにしていましたが、第2子の時は上司から子育てを優先にしろと言ってもらえていたので、急ぎの用事についてのみメールで確認をしていました。上司も子育てを経験されてきたから配慮してくれていたのだと思います。また、特に周りの女性の方は、「大変だけどがんばってね」と声をかけてくれました。
- 根津**：長岡市では昨年4月から、子どもが生まれる予定の男性職員を、上司と人事課が把握する仕組みになっています。それも、職場でも少しずつ男性の育児休業は増えてきており、上司も応援してくれています。

産業立地課担当者
相談員紹介

今年度よりはたプラ事業は「産業立地課」が担当します



主事 小林 滉一郎



主任 大島 望



相談員 大島 靖
(社会保険労務士)



相談員 高野 真規
(社会保険労務士)

Q3

取得するまでに大変だったこと、困ったことはありませんか？

遠藤：特にありませんでした。連絡も社内 SNS で共有し、お客様とのやりとりも見ることができました。お客様にも育児休業を取得することを伝えましたが、皆さん応援してくれていました。

青柳：私ありません。しいて言えば、お金について不安に感じていましたが、総務部の担当者がいろいろと調べて教えてくれたので大丈夫でした。

中島：実は出産予定日より1か月早く生まれてしまい、直前の引継ぎが大変でした。また、第2子妊娠中に妻が入院したため、第1子の育児と仕事の調整がとて大変でした。

根津：仕事の調整に苦労しました。当時の部署では専任が2人体制で業務を行っていたのもう1人に負担をかけるわけにいかず、事業スケジュールの再調整をするなどしていました。

Q4

育児休業復帰後に仕事や家庭で変化はありましたか？

遠藤：子育て中のメンバーの気持ちが分かるようになりました。また、育児休業を取ったことによって家庭内の様子が変わり、少しでも早く家に帰ろうと思うようになりました。家事育児も気づいた方がやるとか、同時に分担できるものがないか考えながらやるようになりました。

青柳：優先順位がガラッと変わりました。以前は仕事が一番でしたが、子どもができてからは優先順位は子どもが第一です。家庭では授乳以外は妻と同じレベルでできるようになったので、お互いフォローしながらやっています。

中島：育児休業を取ったことによって妻との会話が増えました。私が育児休業を取っても会社は普通に回っていますが、家庭に関しては私がやらないと回らないと思うので、今は家事育児の優先順位を高くしています。

根津：今まで以上に効率よく仕事をして、家に帰って育児に関わりたいと思うようになりました。例えば、エクセルの勉強を進めるなど、業務の効率化を意識しています。家庭では、妻の気持ちを察する、率先して育児・家事をすることで家庭が円満になっています。

Q5

これからお子さんが生まれる男性へ伝えたいことは？

遠藤：これから子どもが生まれる予定の男性は必ず育児休業を取った方が良いと思います。育児も楽しくなるし、仕事の生産性も間違いなく上がります。仕事もプライベートも楽しくなります。

青柳：同意見です。育児休業の経験がいろんな場面で活かされます。

中島：日数は短くても取った方がいいと思います。女性は育児休業を取るのが当たり前で期間について選択をしているのに、男性はそもそも育児休業の取得の有無の選択をしているということを疑問に思っています。

根津：育児と家事は夫婦で行うものだと思いますので、それぞれの立場を知るためにも男性も育児休業を取ることが望ましいと思います。

相談員高野のコメント

男性が安心して育児休業を取得するためには、職場の雰囲気、上司の理解、業務の段取りなどが重要だということがわかりました。また、育児休業中に1日中育児と家事を行うことで夫婦の絆が深まり、復帰後も早く家に帰れるように仕事の生産性を上げようとモチベーションが上がっている様子を伺うことができました。

日本生産性本部の調査によると、男性新入社員の8割が「子どもが生まれたときには、育休を取得したい」と答えており、若者の願望が叶えられる地域や職場に今後は優秀な人財が集まってくるだろうと思います。

是非、人財確保という面からも積極的に取り組んでいただきたいテーマです。

最新情報 お知らせ

<令和3年度 はたプラ賛同企業魅力向上推進事業>

今年度もリアルとオンラインのハイブリッド形式で以下の事業を行います。

1. 勉強会（年3回実施予定 少人数制）
2. 企業別はたプラ研修会（3社 1回90分程度）
3. はたプラ賛同企業相談会（4社 1回90分程度）
4. はたプラコンサル（2社 1社3回訪問）
5. はたプラ通信の発行（年3回発行）

詳細については、はたプラメール等で随時お知らせします。

お問合せ：長岡市産業立地課まで（TEL：0258-39-2228）

賛同団体

16

はたプラ賛同企業数

(2021年5月現在) 217

経済団体・非営利団体等

医療・福祉	飲食・宿泊	運輸
19	5	5
卸・小売	教育・学習支援	金融・保険
13	3	4
警備	建設	サービス
1	51	14
情報通信	製造	その他
13	58	15